

2025年度（第5回）日本地理教育学会出版文化賞選考結果報告
(2025.8.23.)

出版文化賞選考委員会

地理教育システムアプローチ研究会 宮崎沙織・泉 貴久・阪上弘彬・中村洋介・山本隆太 編著：『社会問題の解決を目指す地理教育—システム思考からさらにその先へ—』（ISBN 978-4-7620-3417-6），学文社，2025年3月15日発行。

受賞理由

地理教育システムアプローチ研究会は、地理・地理教育にシステムアプローチを導入して社会課題を扱う方法を中高大の教員が一体となって活動している。本書は研究会の成果物としては2冊目である。

システムアプローチにより社会課題が生じた要因を追求するよりも、ありたい社会の追求を通して地域・社会の問題の解決を探求することに重点をおき、未来志向の中高地理学習のあり方を示そうとした。現代はVUCA社会（変化・不確実性・複雑性・曖昧性が絡み合い、予測困難で急速に変化する社会）といわれる。そのような社会に対応する地理教育・地理授業を提示した意義は大きい。

選考にあたっては、以下の点がとくに評価された。

1. 社会問題を扱う際のシステムアプローチの方法を大学教員が理論的に提示し、中高教員が授業実践をととしてその有効性を検証しようとした点は意義深い。
2. 前書よりも、理論部分に発展的で充実し、新しい知見が得られる点は有意義である。
3. 実践部分も事例が多く、それぞれに授業で用いた配布物や実践の成果物、実践者のコメントが示されている点は、中高等学校教員が挑戦意欲を掻き立てることにつながり、普及が期待できる。

以上、本学会の出版文化賞としてふさわしい出版物として評価した。

執筆者（*は編著者）

宮崎沙織* 佐藤真久 山本隆太* トーマス・ホフマン クリスティアン・エンゲルス 中村洋介*
首藤慧真 田中岳人 長谷川正利 泉 貴久* 山内洋美 中村理恵 阪上弘彬*
坪田益美 梅村松秀

2025年度（第5回）日本地理教育学会出版文化賞選考結果報告
(2025.8.23.)

出版文化賞選考委員会

吉田 剛・永田成文・阪上弘彬 編著：『地理教育カリキュラムスタンダード—近未来社会をつくる市民性の育成—』（ISBN 978-4-7722-8513-1），古今書院，2025年2月6日発行。

受賞理由

本書は本学会の「小中高一貫地理教育カリキュラム研究グループ」の成果である。本書は、ESD やSDGs にも関連する近未来社会的市民性（Well-being）の育成をめざし、カリキュラムの構成原理として「方法」「内容」「価値」を加えたフレームワークを示した。この3つの構成領域は学習指導要領の資質・能力の構成領域との関係性についても検討され、理論づくりがなされ実践へと結びつく。なお、本研究グループは理論系ユニットや実践系ユニット、さらに複数のサブユニットやグループに分かれて議論・検討されるなど、筆頭編著者の吉田氏を中心とした組織的な活動がうまく機能し、個々の成果を効果的・効率的に統合した点は注目に値する。

選考にあたっては、以下の点がとくに評価された。

1. 「地理・地理教育」というと中高からというイメージが強いなかで、幼小中高を一貫するカリキュラムを意識的に提案しようとした点は高く評価できる。
2. 地理概念として、5大テーマ（①位置や分布、②場所、③人間と自然環境との相互依存関係、④空間的相互作用、⑤地域）に⑥持続可能性を加えて6つで構想する点は提案性が高い。
3. 先行研究・諸外国のカリキュラムの検討やそのレビューの整理が丁寧であるなど、本書が出版されたことで、幼少中高一貫の地理教育の理論・実践研究への刺激となり、本領域の実践や理論研究を活性化に寄与することが期待できる。

以上、本学会の出版文化賞としてふさわしい出版物として評価した。

執筆者（*は編著者）

吉田 剛* 永田成文* 阪上弘彬* 近藤裕幸 守谷富士彦 河本大地 牛垣雄矢 大矢幸久 椿実土里 林 靖子 伊藤智章 國原幸一郎 三浦 徹 今野良祐 齋藤亮次 飯島典子 岡本恭介 守 康幸 伊藤直哉 内川 健 佐藤克士 伊澤直人 栗本一輝 児玉和優 鈴木 瞭 八木龍一 移川恵理 金田啓珠 鈴木達也 牛込裕樹 沓澤 遥 木場 篤 高木 優 辻 常路